

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

胃腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術施行時のオーバーチューブ使用は
術後誤嚥性肺炎の予防に寄与するか

1. 対象となる患者さん

2010 年 1 月から 2023 年 5 月に当院で胃腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術を受けられた患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 消化器代謝内科 岩井聡始

3. 研究の目的と意義

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）は、早期胃がんや胃腺腫などの胃腫瘍を内視鏡により切除する治療法です。手術と比べて低侵襲で早期胃がんの根治が望めるため、高齢の方や手術リスクの高い方でも実施される機会が増えています。しかし、胃 ESD では術後の誤嚥性肺炎のリスクが 1.9%あり、時に致命的な合併症となります。胃 ESD 後に誤嚥性肺炎を生じるリスク因子に関する研究報告はあるものの、誤嚥性肺炎の発症予防法に関する研究はほとんどありません。当院では胃 ESD に際して口から食道に内視鏡よりやや太いチューブ（オーバーチューブ）を挿入し、胃内容物の逆流防止に努めております。本研究は、対象期間に当科で胃 ESD を受けられた方々の診療記録情報を収集し、胃 ESD 施行時のオーバーチューブ使用が術後の誤嚥性肺炎発症抑制に有効に作用するかどうかを検討するものです。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、胃 ESD 施行時のオーバーチューブ使用が術後の誤嚥性肺炎発症抑制に有効に作用するかどうかを検討します。

5. 使用する情報

診療情報：年齢、性別、基礎疾患に関する情報、胃 ESD の手技に関する情報

6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2026 年 12 月 31 日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 消化器代謝内科 岩井聡始

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：satoshi181@naramed-u.ac.jp